

手もとりあて



一足お先に
梅が咲きました
撮影：施設敷地内

サクラ色の香り

特養のリビングに広がる甘い香りは、手作りどら焼き。先月は、入居者の方々に、フライパン返しや、泡立て器を使ってもらい、おいしく出来上り。この三月の暖かい陽射しが差し込むリビングでは、塩漬けされた葉と、濃いピンクカラーのサクラ餅を手作り。サクラの葉とアンの香りが漂う中で、お年寄りの方々が、楽しむ。

施設長 小川内秀樹

二月三日から発生した、ショートステイでの新型コロナウイルスウィルス感染は、二週間が経過し、ようやく落ち着きを回復してきている。この期間、ご家族様にはご心配をおかけし、陽性のご利用者には、自室での隔離。容態が思わしくない方は、数名の方が、医療機関へ入院。ショートステイは、在宅サービスであり、ご利用者は、複数事業所の介護サービスをj利用している為、特養とは異なる意味での影響が大きい。ケアマネージャーの協力も頂きながら、進ませています。振り返れば、昨年度末直前に一度目の感染対応が始まり、この三月にも同様の対処を求められる事となり、一年かけて実施したことになる。

ご利用者の痛みを、想像すればする程に、折りを重ねてきた事を振り返る。季節は進み、霞の空気と風を感じるが、積み重ねてきた試行錯誤の先に訪れたこの春。目には見えない経験値は、一年前とは比較にならないほど、中身の濃い心にサクラ色の香り。

二月のボランティア

協力牧師の方々（日曜礼拝）
※現在コロナの感染対策の為、ボランティア様の受け入れを中止しております。

出前の日

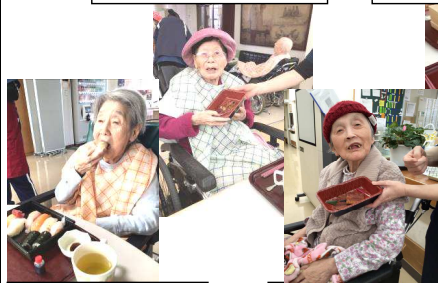
憩いの汀ヘルパー副主任 越路直弘

二月二十日に出勤を取りました。感染対策もあり、久しぶりに行くことができました。今回は、石下の日本橋で出勤を取り、虹の架け橋、憩いの汀と合わせ、十二名のご利用者に昼食時に召し上がって頂きました。メニューは、うな重とお寿司の二種類でしたが、どちらもご自分で食べたいと選ばれたメニューだったので、皆さんいつもより食がすすんでいました。まだまだ感染対策中ですが、少しずつ皆さん楽しんで頂ける行事を計画し、提供していきたいと思っております。

寿司と鰻。最高！



すごいですね。完食！



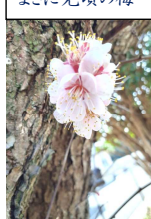
良いネタだね(笑)

立派な鰻だな～

暖かい日が増え、春の気配を感じる日が増えました。施設の敷地を歩き、足元を見ると、可憐な花々が咲き始めていました。

キングスガーデンの花々

まきに見頃の梅



桃色のヒヤシンス



雨上がりに輝く水仙



春先でも美しい寒椿

相談員日誌
野田 望

「希望」
昨年の十月末に、娘が新型コロナウイルスに感染。私も、年末年始に感染し、ご利用者の皆様、関わる職員や、ご家族には、多大なご迷惑をおかけした。自宅では、必要な感染対策を行う事となり、娘が感染した際には不憫な思いをされた。自宅二階の、個室に隔離。子供用携帯電話でのメール交換が、貴重なコミュニケーションになって欲しいと、妻も、娘が喜ぶ弁当を届けた。それでも、とても心細く、寂しい日々だったろう。「元氣になったら、パパとサツカがしたい。」娘から届いたメール。二階からは、泣き声。「大丈夫。サツカも出来るし、好きな物も食べよう。何を食べるか考えておいてね。」と返した。十一月。眩しい日差しの下、すっかり回復した娘とサツカをした。好物の洋食も食べた。辛い時こそ「希望」と、「楽しいイメージ」が必要だと感じた。



(NO412)
特別養護老人ホーム
筑波キングス・ガーデン
0297(24)5139

ぬくもり



依田次雄様の紹介（次男 依田豊様）

父は一九二六年（大正一五年）に生まれ、幼い頃より祖母と教会へ通い、その影響もありクリスチャンになり、神学校を経て牧師の道に進みました。一九五六年に結婚し、子供三人を儲け、結婚と同時に、茨城の各地で牧師を勤め、一九七二年より約四十年間那珂現（現ひたちなか市）の地で奉仕してきました。

一九九七年母が病で倒れて、一人暮らしをしながら勤めてきましたが、この間、母も七年間、キングスガーデン、特養でお世話になりました。二〇一〇年、高齢の為、那珂現キリスト教会を退任、川越ケアハウス主の園に入居しました。入居中の二〇一九年に、台風で水害に遭いましたが、筑波ケアハウスや、他の仮住まいを経て主の園に戻りました。主の園の生活も体力的に不安が出る様になり、二〇二二年より筑波キングスガーデン、特養でお世話になっております。コロナが早く収束して、キングスガーデンでの交わりが出来る事を楽しみにしております。

その大能のみわざのゆえに、神をほめたえよ。そのすぐれた偉大さのゆえに、神をほめたえよ。
詩篇150編2節



ホームページ

どら焼き作り

虹の架け橋ヘルパー 秋谷陽子

二月十日、虹の架け橋リビングにて、ご利用者様と一緒にどら焼き作りを行いました。リビングへ行く時、どら焼きを焼く匂いが漂ってきました。ご利用者様と一緒に生地を混ぜ、ホットプレート3台使い、利用者様も交代で、どら焼きを焼いて頂きました。焦がさないよう、皆さん真剣な表情で焼いておられました。フライ返しを使い、焼いている姿を見て「昔は毎日料理を作ってたんだから、これくらい簡単だよ。」と笑いながら話して下さいました。コロナ禍で行事などが制限され、久しぶりの開催にご利用者様や職員にとっても大変貴重な時間になりました。こうした機会を設けられたことに感謝しております。



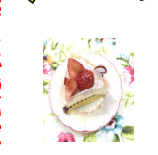
真剣な表情です！



あんこも
生地も美味しい
毎日、食べたい！

三月の誕生者

- 小見川真子様 八十九歳
- 小見川春子様 九十七歳
- 北島千代様 九十二歳
- 篠崎武夫様 九十三歳
- 平間小夜子様 七十六歳
- 増田公一様 七十四歳



春に向かつて
理事長兼総合施設長 宇都宮和子

法人設立は一九八〇年、折りからスタートした日本キングス・ガーデンも二〇三三年を迎え、四十二年目に入ります。特にこの三年間は想像もしなかったコロナウィルスと言う感染力の強い病気が世界中に広がり、筑波キングス・ガーデンも高齢者や障がい者が感染し、その対応する職員も感染しつつ、一緒に頑張って取り組んでまいりました。改めて職員に感謝し、折るばかりです。国の方針は徐々にマスクを外し、今までの規制も徐々に解除されますが、高齢者施設は油断できません。特にターミナルケアに取り組んでいるので、慎重に対応していかねばなりません。気づけば三月、周辺の梅の花や、すいせんが咲き、すっかり春の陽気になりました。障がい者や高齢者の方々が嬉しそうに散歩する姿に、自然の力と神様の変わらぬ恵みに感謝です。新年度は徐々に今までの行事が出来、ご家族とも楽しい交わりが出来るようになる事を祈っています。これからも何が起るか分かりませんが、一日一日を大切に笑顔で前進です。受けるよりも与えるほうが幸いである（使徒二〇・三五）